

白樺の本◇文学史の林

紅野敏郎



青英舎版

白樺の本

昭和五十七年五月十九日 第二刷

著者 紅野敏郎

発行人 堀健二郎

発行所 青英舎

発売所 星雲社

東京都千代田区神田錦町三二六

営業（〇二）二九四一五八一八

編集（〇二）二九一一六四七〇

定価 二四〇〇円

印刷所 平河工業

製本所 越後堂製本

黒田製本

万二、落し乱丁の場合は

お取替します。

著者略歴 大正11年、兵庫県西宮市に生まる。復員後、昭和27年早稲田大学国文科卒。現在、早稲田大学教授。日本近代文学館常務理事。主な編著書に『シンポジウム大正文学』『展望戦後雑誌』『本の散歩◇文学史の森』『文学史の園◇1910年代』『有島武郎「戒る女」を読む』『近松秋江研究』『鑑賞日本現代文学7 志賀直哉』などがある。岩波版『志賀直哉全集』の編集、日本近代文学館編の『日本近代文学大事典』などの編集も勤めた。大正文学、とくに「白樺派」の文学の研究、昭和10年代から第一次戦後派にかけての研究論文多数。



文 学 史 の 林

白 樺 の 本

紅 野 敏 郎

東 京

青 英 舎 版

装画・池田良二

協力・銀座堂ギャラリー

白樺の本◇文学史の林
目次

I

- 里見弴——こころの雁書、お良さん 16
- 里見弴——我が心慰めかねつ更科や、お良さん 20
- 里見弴——初期短編集『善心悪心』『三人の弟子』『未明』 25
- 里見弴——鏡花に捧げた第三短編集『慾』 31
- 里見弴——新潮社版中篇小説叢書『潮風』 36
- 里見弴——初期隨筆集の芸『白醉亭漫記』 42
- 里見弴——唯一の戯曲集『妬心』 46
- 里見弴——志賀直哉との旅『滿支一見』 51

里見弴——菊判の短編集『アマカラ世界』 56

里見弴——戦後最初の短編集『姥捨』 61

里見弴——戦後早々のエッセイ集『蟬の抜殻』 66

里見弴——晩年の傑作『極楽とんぼ』 71

里見弴——泉鏡花体験 76

志賀直哉——小林多喜二 82

志賀直哉——『留女』 93

志賀直哉——『夜の光』 100

志賀直哉——柳宗悦 107

志賀直哉——その本 114

志賀直哉——文体そのままの死 123

武者小路実篤——『カチカチ山と花咲爺』 129

武者小路実篤——『新しき村の生活』 136

武者小路実篤——『一個の人間』の死 143

武者小路実篤——『白樺』終焉 149

武者小路実篤——白樺山脈 154

千家元麿——『自分は見た』 161

有島生馬——有島家との交わりの一瞬『若き科学者の随筆』 171

有島生馬——『一つの予言』有島生馬芸術論集 175

木下利玄——『紅玉』 179

木下利玄——古河力作との縁、旧蔵本『西洋草花』 189

岩淵兵七郎——木下利玄・長与善郎とのかかわり歌集『押し花』 194

郡虎彦——異議あり、複刻版『郡虎彦全集』 200

有島武郎——初期作品群 203

有島武郎——有島一族への視点を 213

有島武郎——柳田泉訳ホイットマン『わが空想よ、さらば』 216

有島武郎——春陽堂文庫「有島武郎小全集」 221

有島武郎——有島行光(森雅之)ら子供たちの発言『父の書齋』 226

II

夏目漱石——新聞小説挿画について 232

芥川龍之介——影の薄い本への愛着『奇怪な再会』 240

菊池寛——『我鬼』 245

豊島与志雄——『エミリアンの旅』 252

III

全集・叢書のすすめ 260

短編小説の魅力 265

大正期の「叢書」について 269

日本近代文学館の10年 274
文学全集における人と時代 279

IV

坪田勝——田畑修一郎の編んだ本、

戯曲遺稿集『トロイの木馬』 296

中山省三郎——追慕記集『海の星』 302

嶋中晨也——遺稿『ささやかな墓標』 307

津田青楓——『寄せ鍋』 309

角田柳作——『井原西鶴』 314

芥川徳郎——『茅花』 319

小川未明——『人間性のために』 324

幸田露伴——『滑稽談』 330

西川一草亭——『落花帯記』 335

金杉惇郎——『四季の劇場』 340

田中貢太郎・

井伏鱒二ら——『博浪沙 随筆一五人』 345

長田幹彦——『悲しき通路』 350

水島爾保布——『痴語』 354

田畑修一郎——『蜥蜴の歌』 359

小田嶽夫——『あたゝかい夜』 364

高嶋米峰——『米峰回顧談』 369

馬場孤蝶——『野守草』『連翹』 374

水守龜之助——『候虫時鳥』 378

長谷川時雨——『桃』 383

青柳有美——『八円旅行』 388

佐藤紅緑——『紅緑日記』 393

都筑省吾——『夜風』 398

宇野浩二——『心つくし』 404

洪川驍——『残照』 409

あとがき——私と『暗夜行路』など

I